

徳永プーサク



フランクフルトの熟女
ロツテンマイヤー

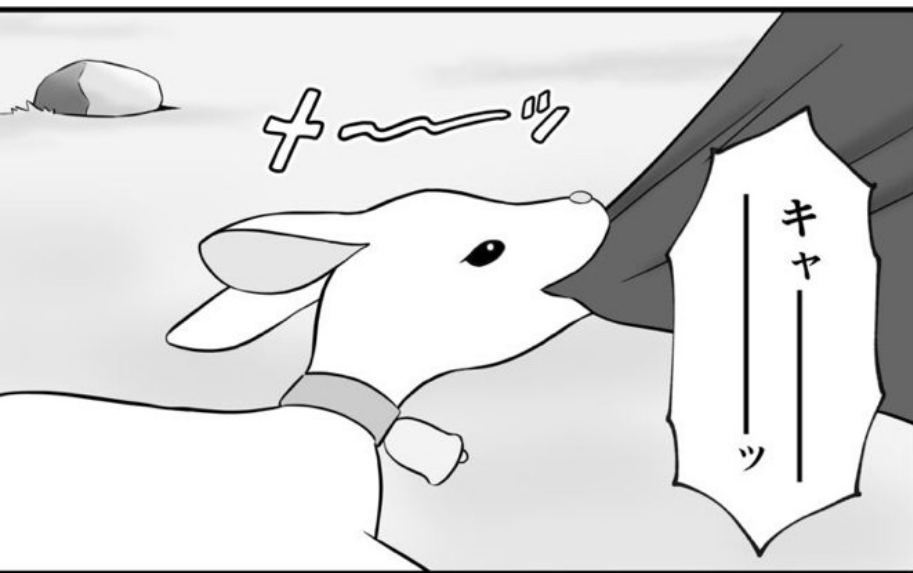
はじめに

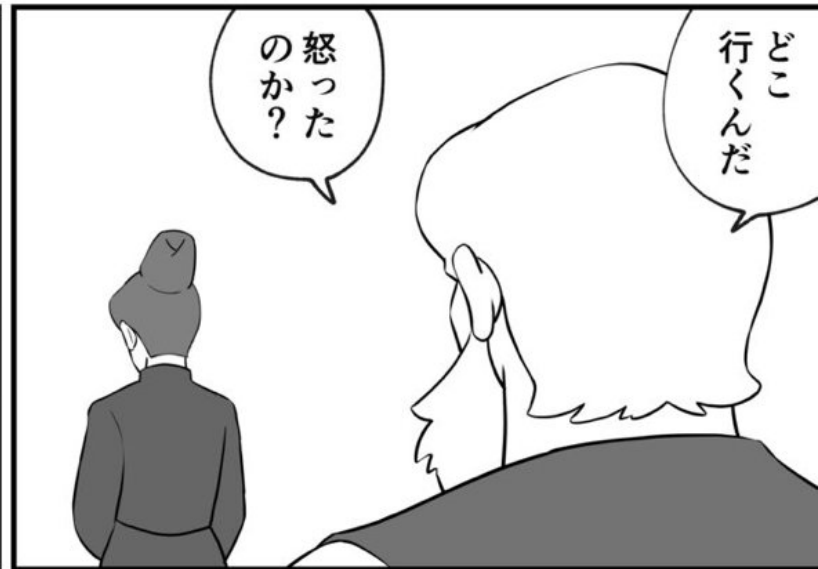
ハイジはアルムの山でおじいさんと暮らす
元気いっぱいの子。

大の親友であるフランクフルトのお嬢様
クララが初めて山へやって来ることになり
大喜びのハイジ。

病弱で脚の不自由だったクララは大自然の
中で生きる力を取り戻し、ハイジやおじいさん、
ペーターの助けを借りて懸命に練習に励んだ
結果、ついに歩けるようになるのでした。

それから一年後、クララが執事のロッテン
マイヤーさんと共に再びアルムの山を訪れる
ところからこの物語は始まります——





ああ、
ご主人様に
会いたい…

ご主人様、私は
いつでもあなたの
ことをお慕い申し
ているのですよ



んっ…



亡くなられた
奥様の代わりに
私があなたを
慰めてあげたい…



いくっ…!!



でも私は執事…
主人とは決して
結ばれぬ身…

あはっ

あっ

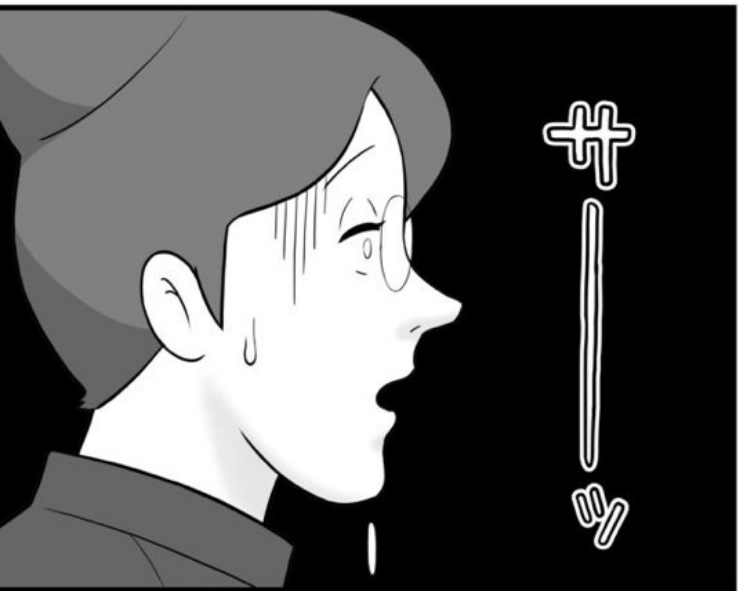
この想いは胸に
しまったまま
執事として一生
あなたにお仕えして
いくつもりです…

いっ…
いっ…
いっ…
っ…

グキユ

クキツ

キユツ





ニヤニヤ



なんでも
するから!!



お願い、
皆には黙ってて
ちょうだい!!



年増の割に
結構いい体
してんね

ふーん
じろ
じろ



そうそう
よく見える
ように手は
後ろで組んだ
ままね



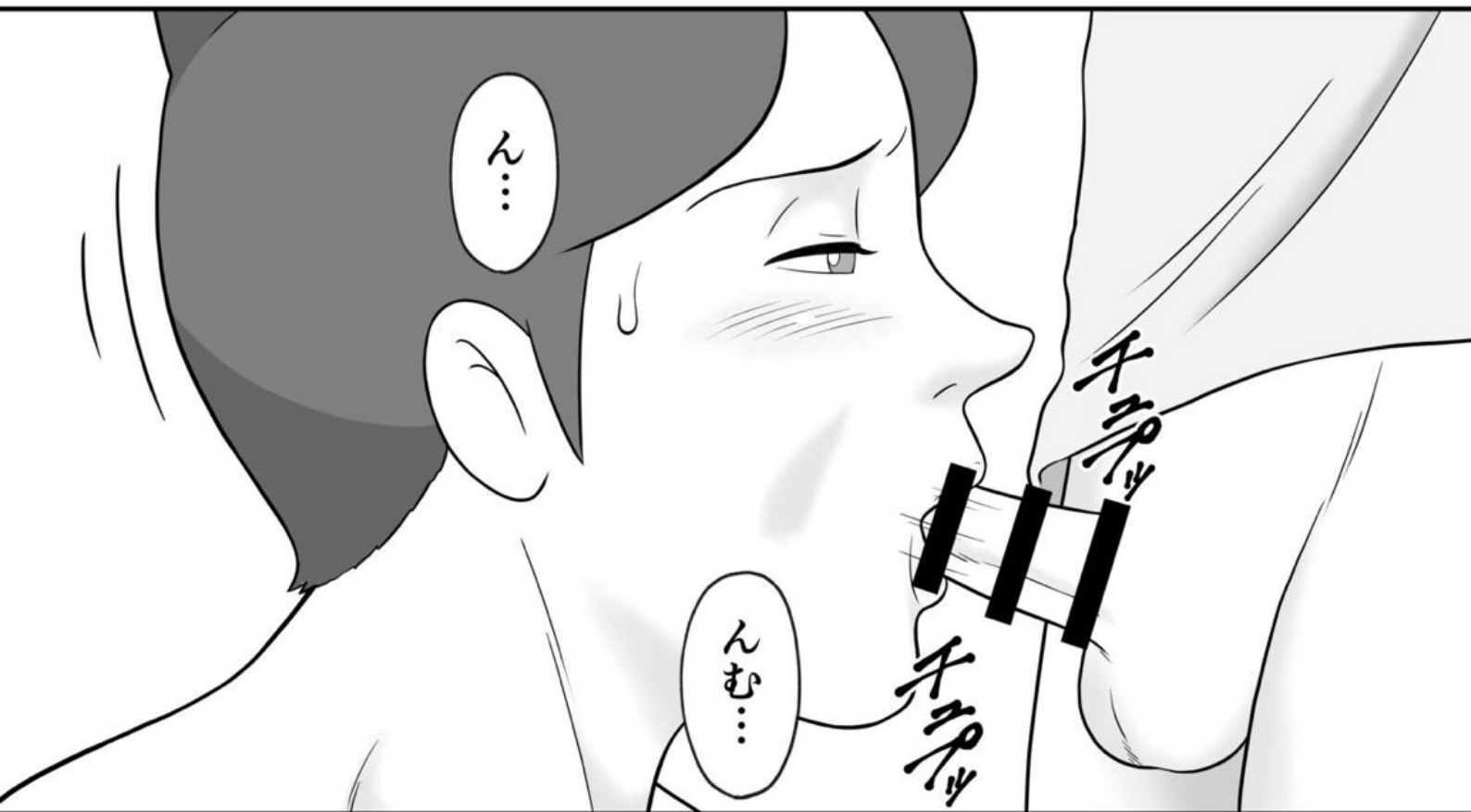
もういいでしょ?
言われた通りに
したんだから
黙っててくれる
わよね?

パッパッ

こっからが
本番だよ



おばさん
本気で
言ってるの？

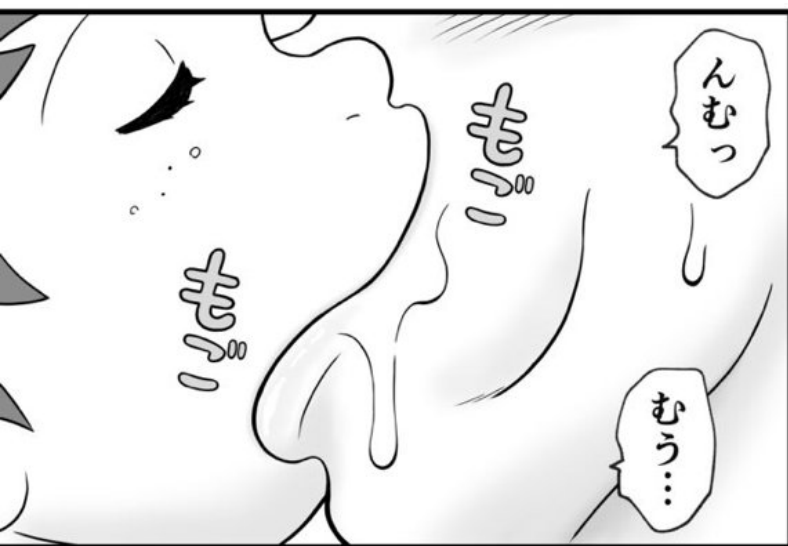


な、なんで
私がこんな
こと...



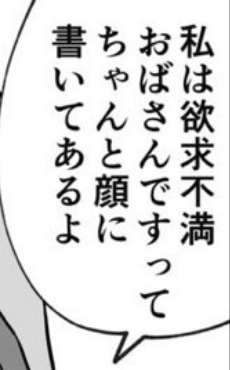
僕を満足させて
くれたら黙ってて
やるからしっかり
しゃぶりなよ







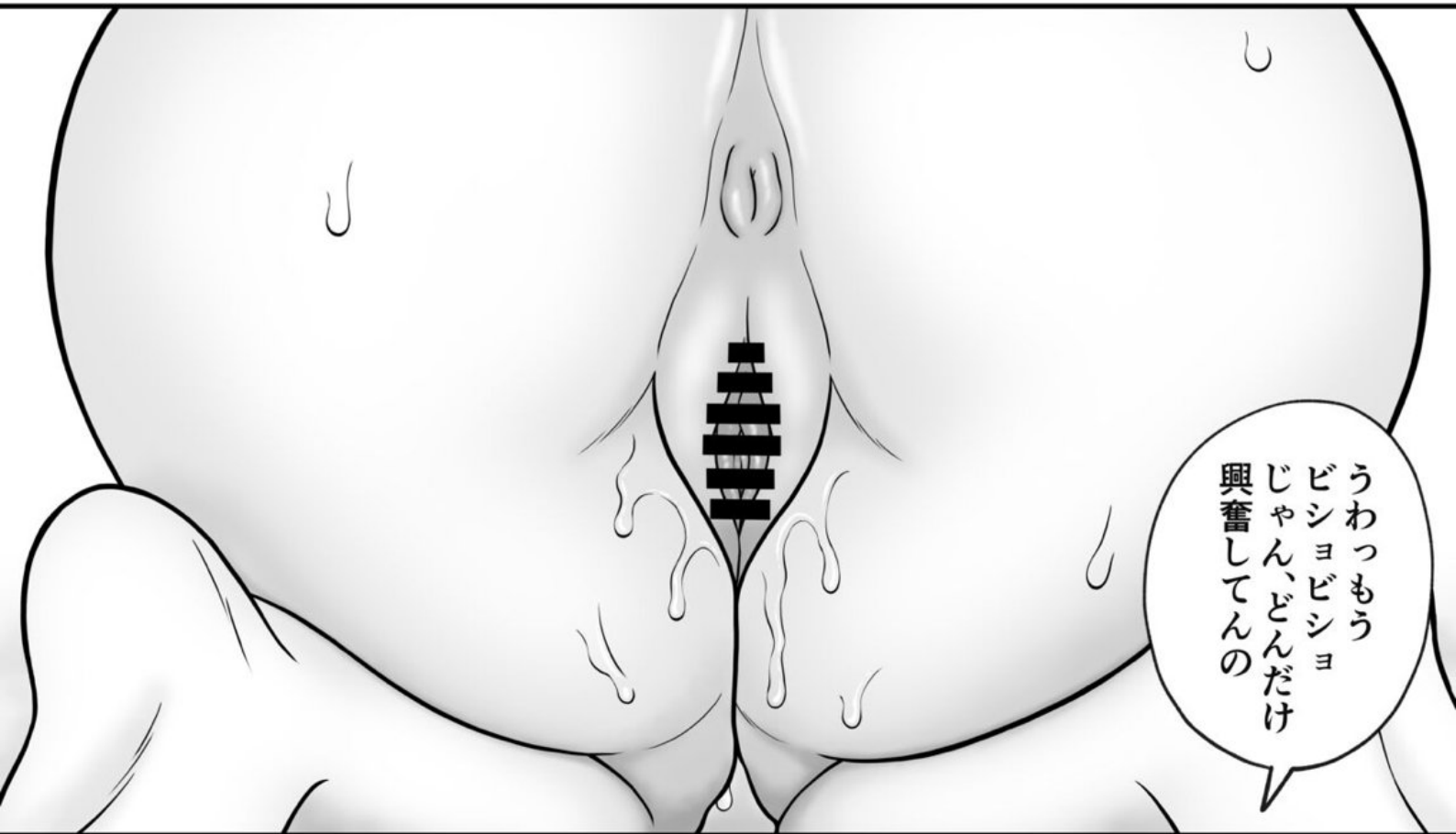
ご期待通り
お婆さんのことも
気持ちよくして
あげるから四つん這い
になってそのでかい
尻をこっちに向けて



私は欲求不満
お婆さんですって
ちゃんと顔に
書いてあるよ



んん…



うわっもう
ビショビショ
じゃん、どんだけ
興奮してんの



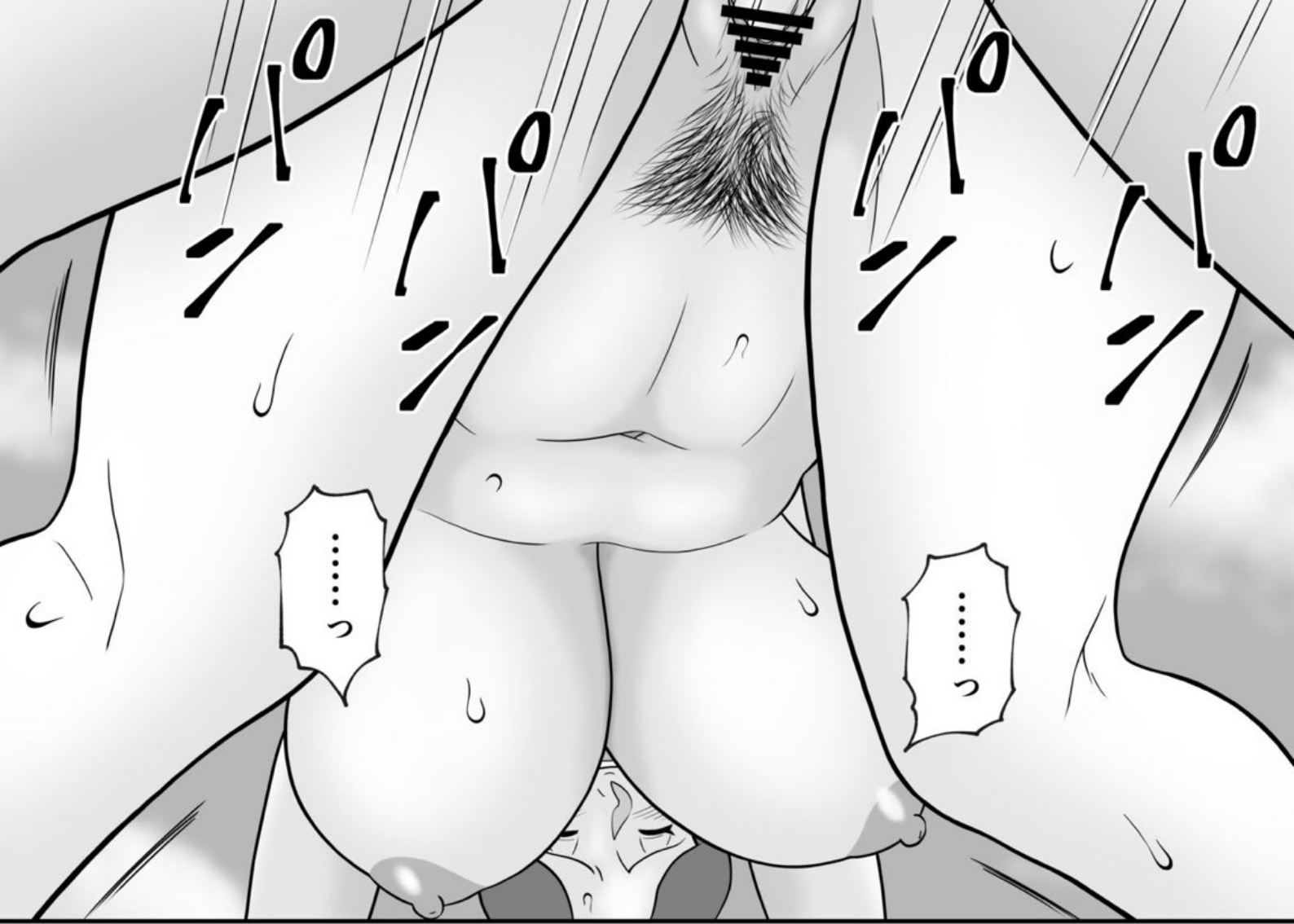
はいはい
っと

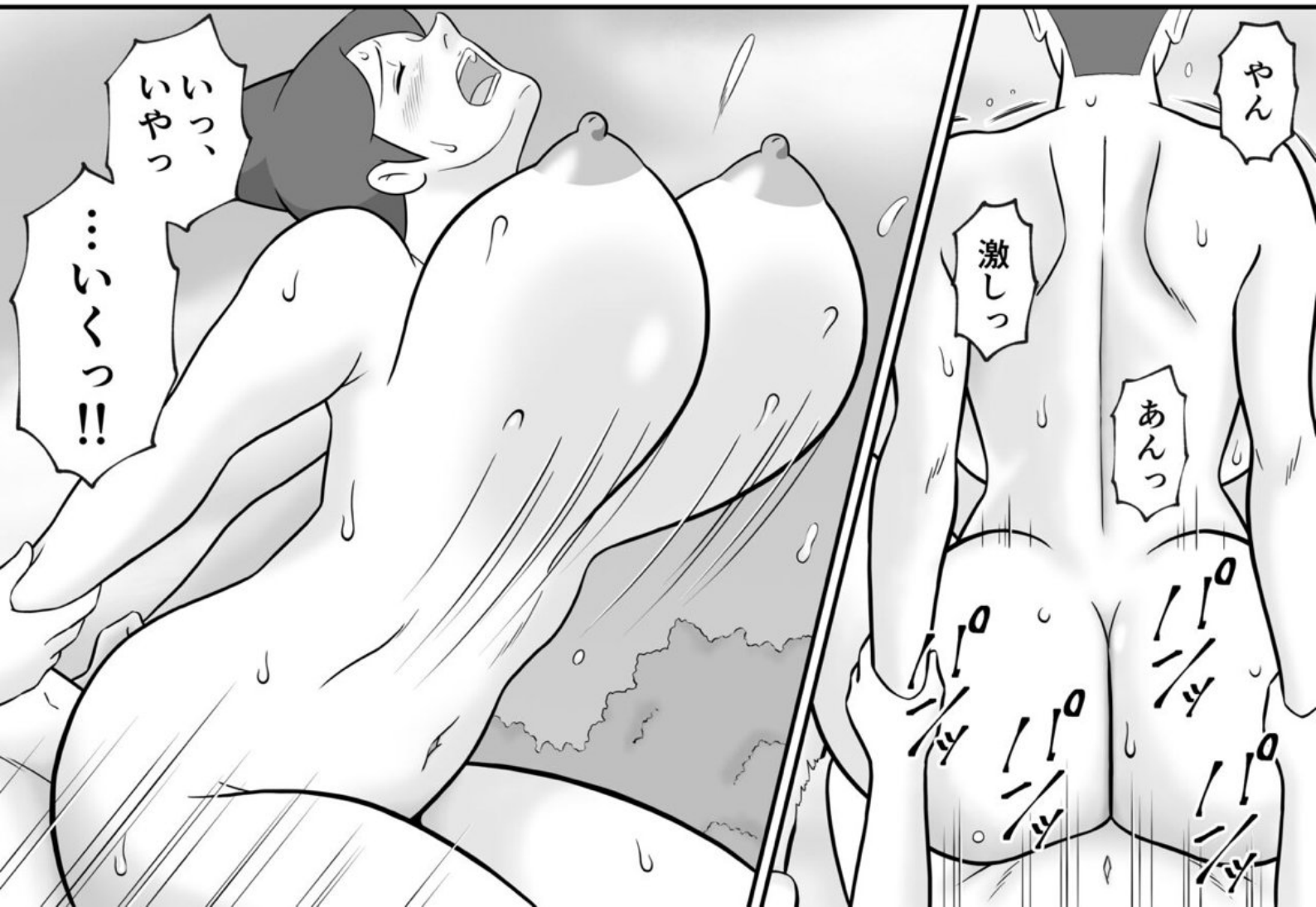
んっ!!

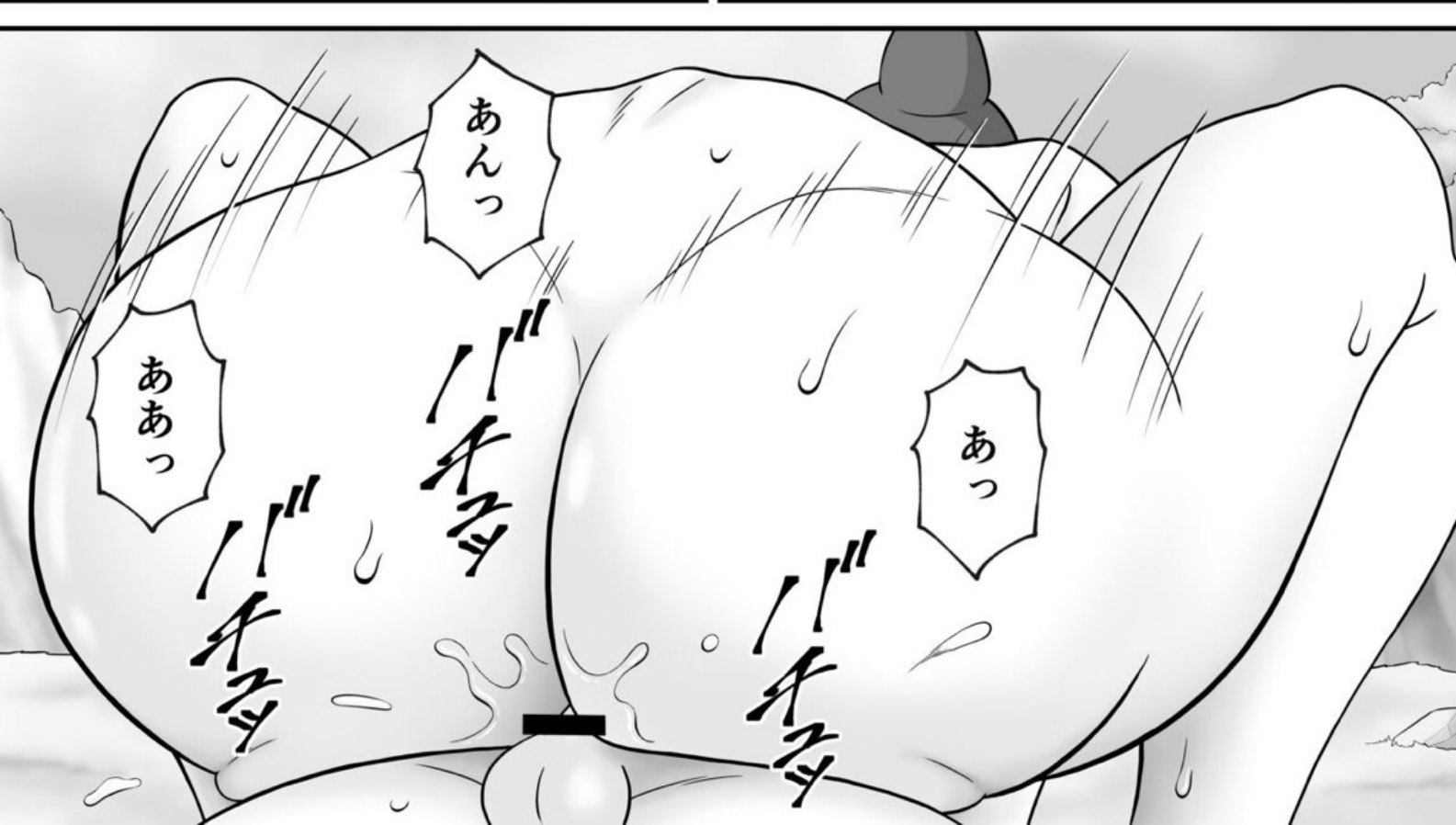
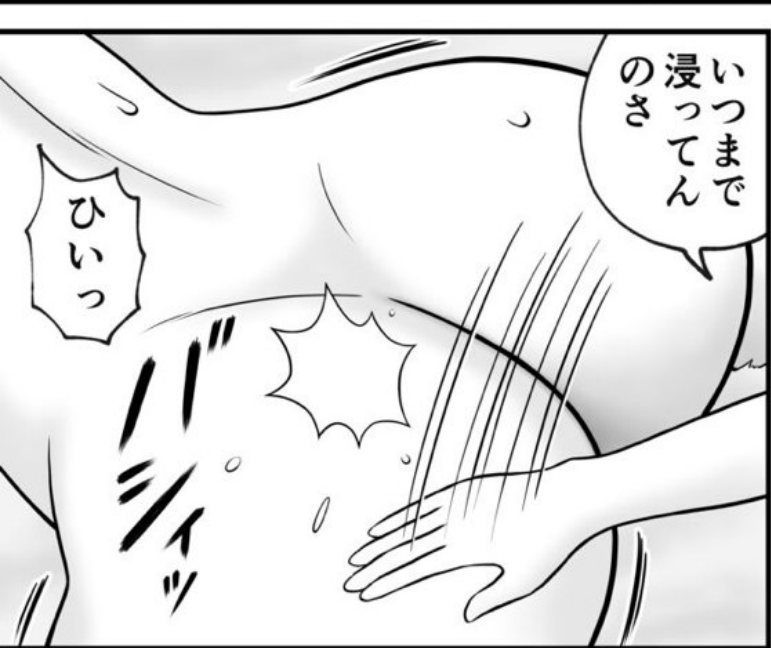


だっ、誰があんた
みたいな子供に
興奮なんかっ!

もうさっさと
済ませなさい!









こんな子の
言いなりになつて
死ぬほど屈辱的
なのに…

あんっ

あはあ

セックス
気持ち
いいっ!

そんな
激しくされ
たら僕…

ちよっ、
おばさん
腰の振り
ヤバイ…



そうよっ、
この私がこんな
小汚い田舎の
子供に舐められて
たまるもんですかっ

さっきの
威勢の良さは
どうしたの!?

どう?
これが大人の
腰使いよ!!

まだまだ大人の
良さをたっぷり
味わわせて
あげるわ!!

あ…

あ…

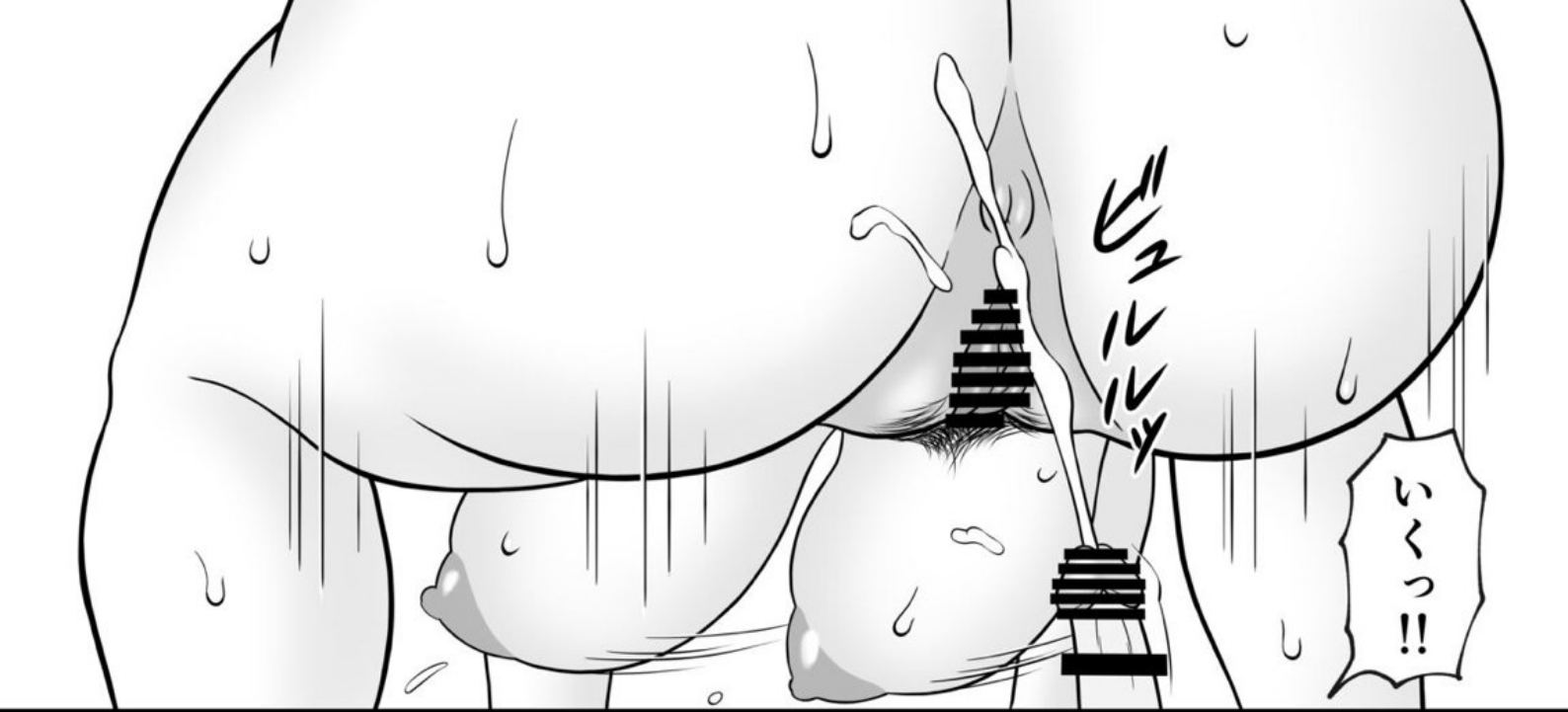


!?
な、中は
ダメッ!



も、もう
無理…

いつちや
うっ…





あんたもあの子
相手じゃ物足りん
かったらう

ザッ



ものは相談
なんだが一つ
ワシにも愉しま
せてくれんか？

まあそんな
ことはどう
でもいい



ぐっ…

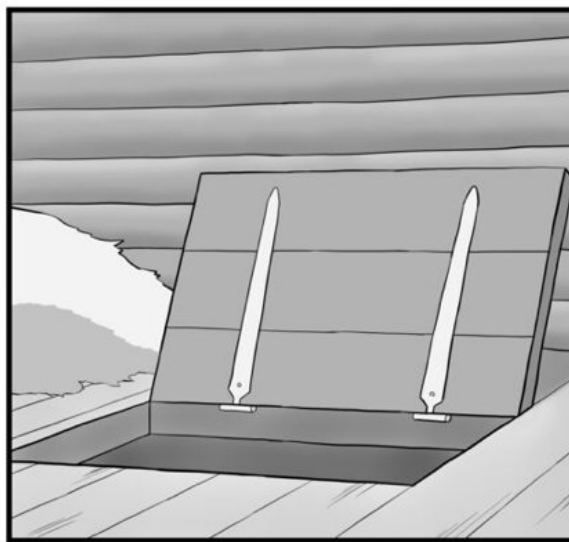
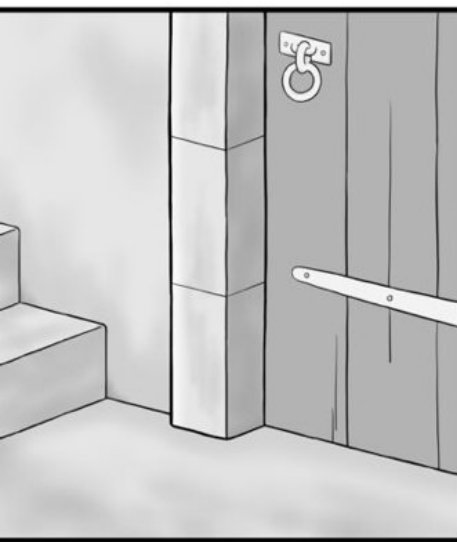


あんたがペーターを
たぶらかして隠れて
ヤっておったなんて
ハイジやクララに
知られたくないだろ？

黙って言う
ことを聞いた
方がいい



いいいや…
来ないでっ
…



ここは夜ハイジが
寝静まった後、
娼婦を呼ぶために
作った秘密の
地下室だ

どんなに声を
あげても外には
聞こえんように
なっとるから
安心しろ

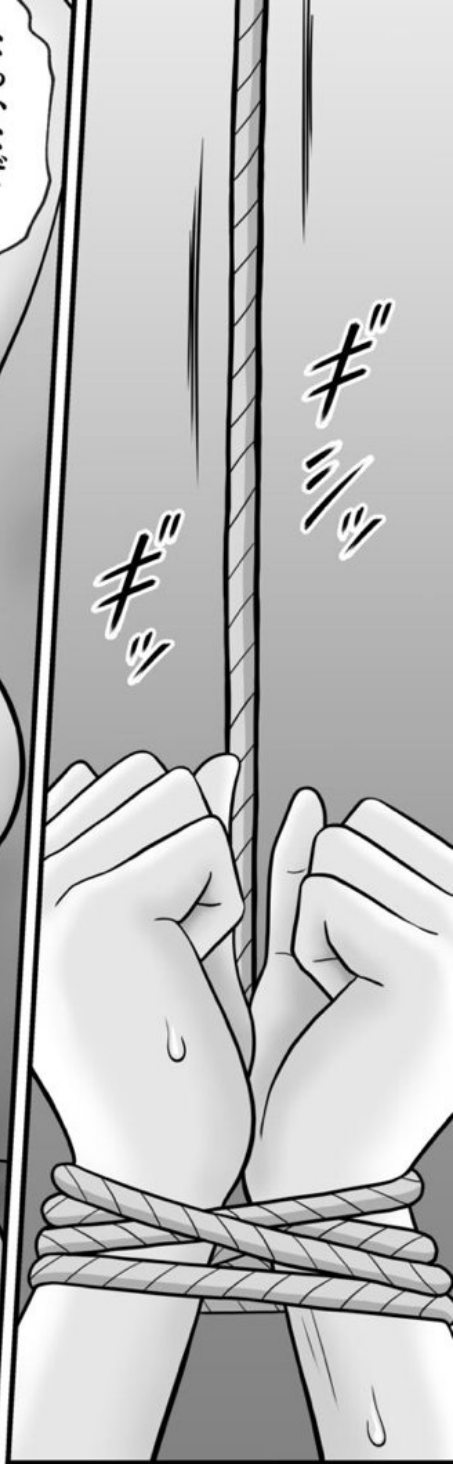


フランクフルトでは
ワシの可愛いハイジ
を散々苛めてくれた
そうじゃないか

その
お返しだ



なっ、なぜ
こんなひどい
ことを…



ギ
ツ
ギ
ツ



ワシお手製の
特大のコイツを
ブチ込んで
やろう



がはっ!!

ほれ、挿れやすい
ようにヨダレで
ドロドロにしろ



い、いやっ…
そんな大きいの
入らない…





いやっ...

ガク

いくっ...

ガク

プライドの高い
あんたみたいな
女には耐えられ
んだろう



あうっ

あんっ

どうだ、縛られて
偽物のチンポで
マンコを掻き回さ
れるのは

ビクビク

ビクビク



ゴポッ

あんっ



ギシッ

ギシッ

ビクビク

ビクビク

いっくうっ!!



ああ

なんだ、小便
漏らすほど
気持ち良かった
のか

ショロロロロロ...





さつきの木の
おもちゃよりも
大きい...

こんなので
突かれたら
私！



熱っ！
やけど
しそう...



お嬢様達が
帰って来る前に
こんなこと一刻も
早く終わらせないと...



物欲しそうな
顔しておって

ほれ、ちゃんと
おねだりせんと
いつまで経っても
お預けだぞ

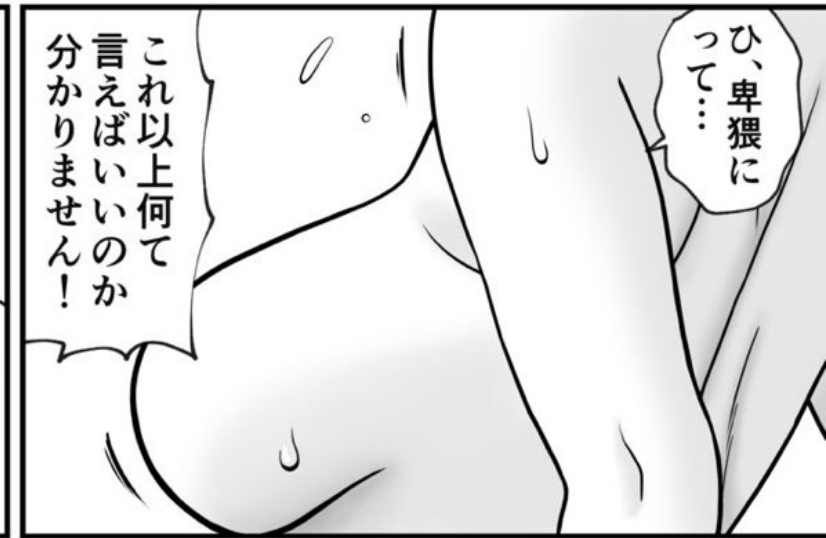
そ、そうよ...



お、おちんちんを
...挿れて...下さい
.....



本当に挿れて
ほしいわけじゃ
ないのよ...





ガバッ

あっ



なっ…

あなたが
そう
言えと…



よくそんな
下品な言葉が
言えたもん
だな

そんなにワシの
チンポが欲しい
のか？



いきなり
そんなっ…

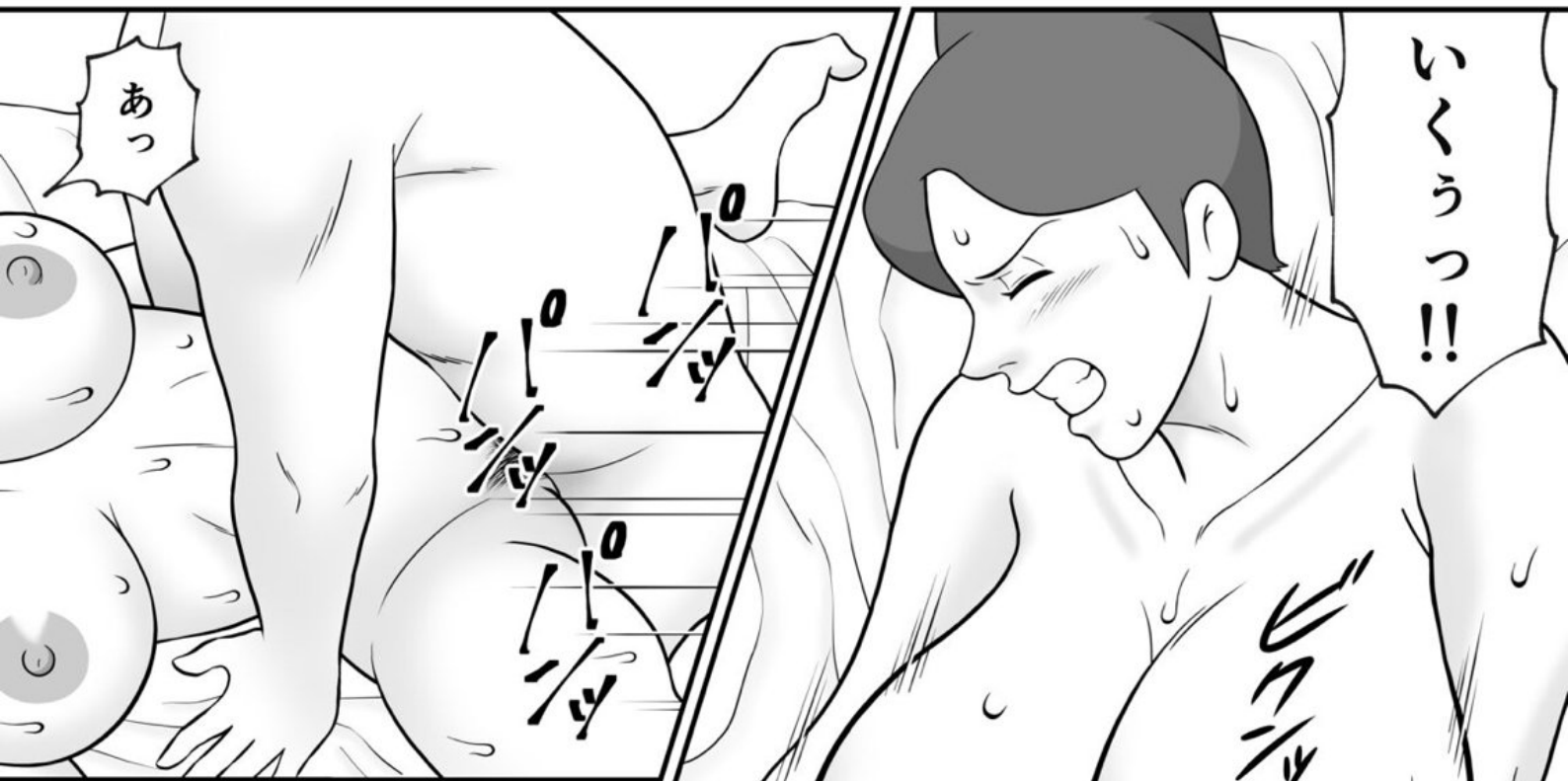
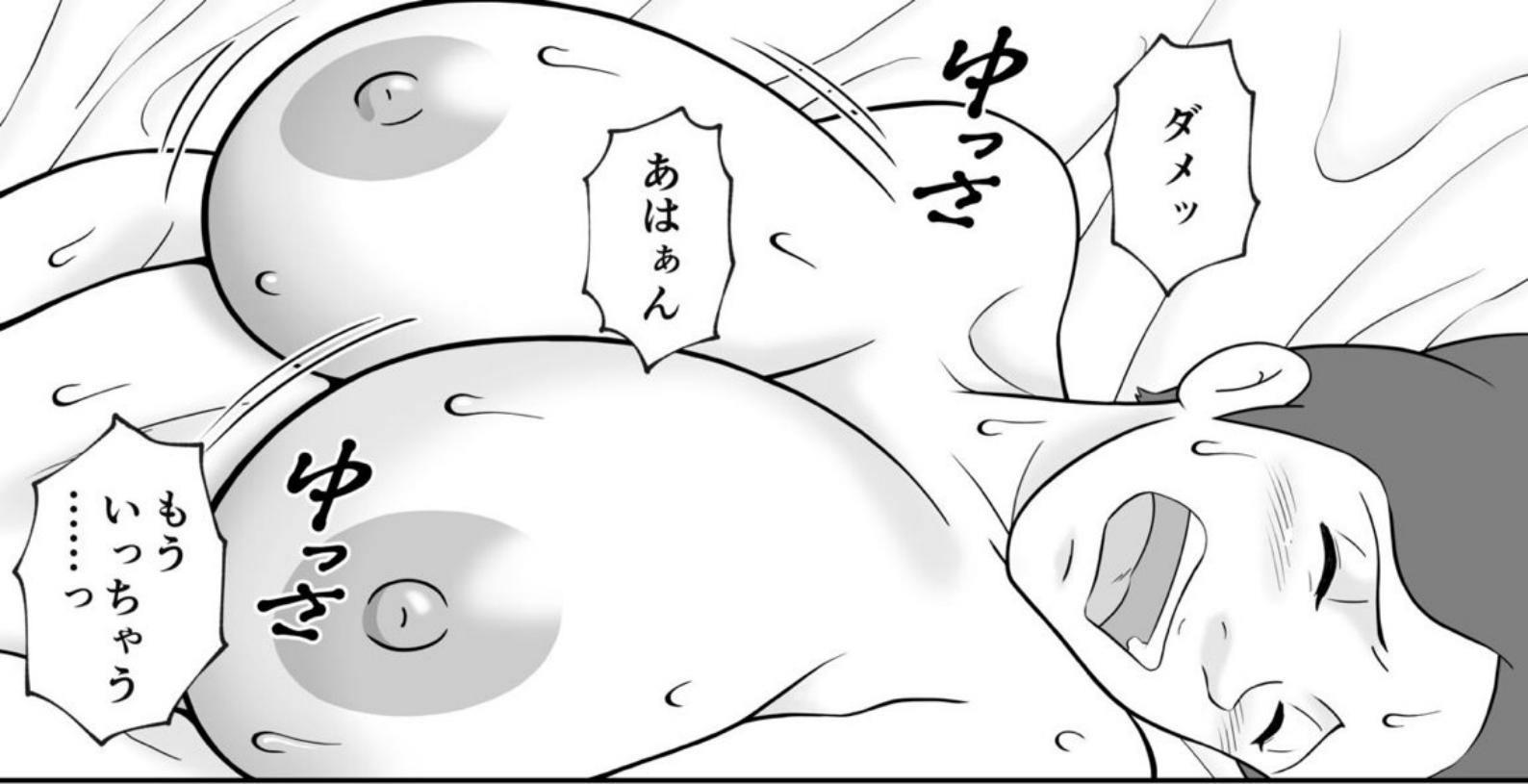
いやっ

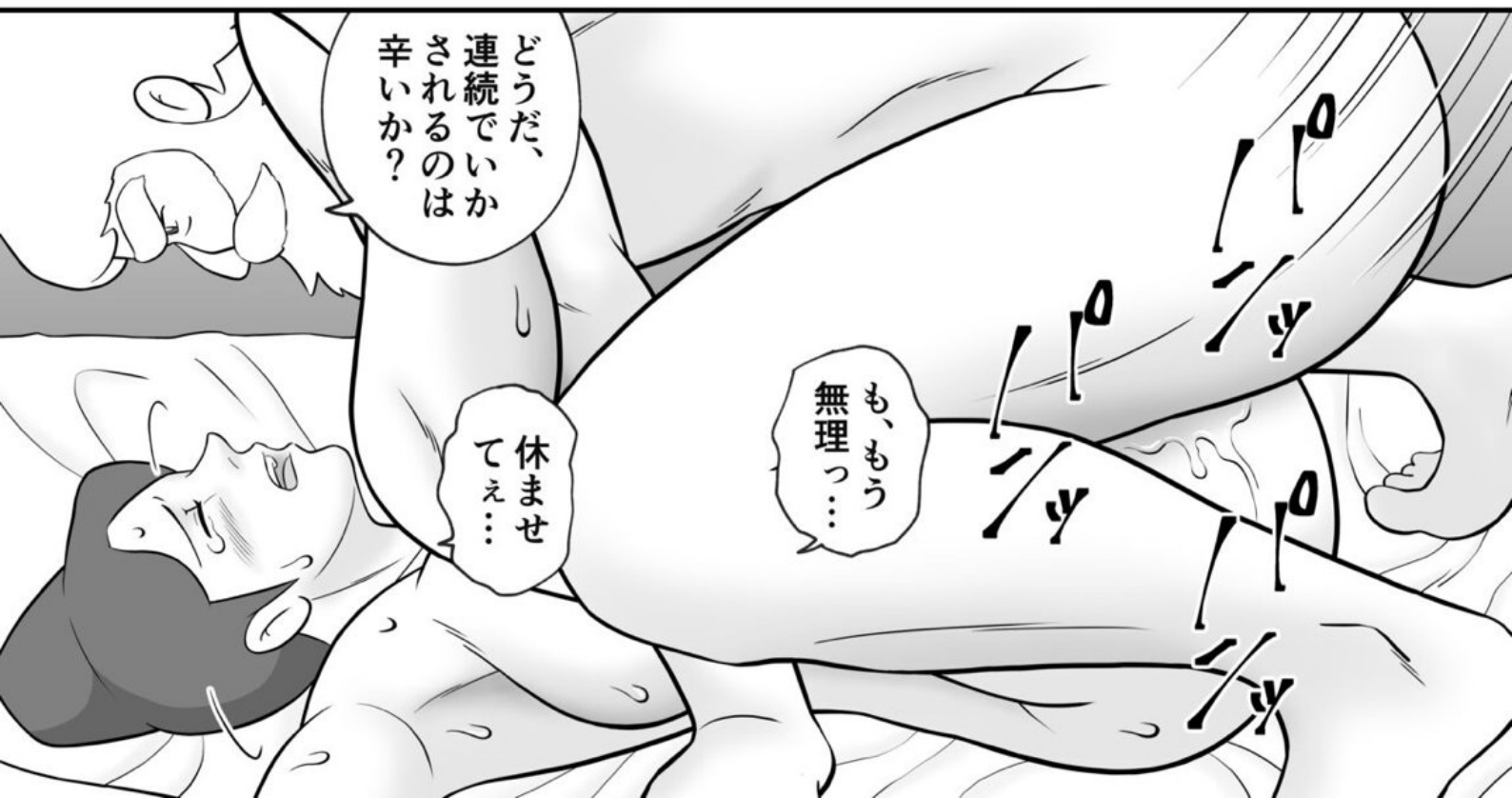
激しいっ…

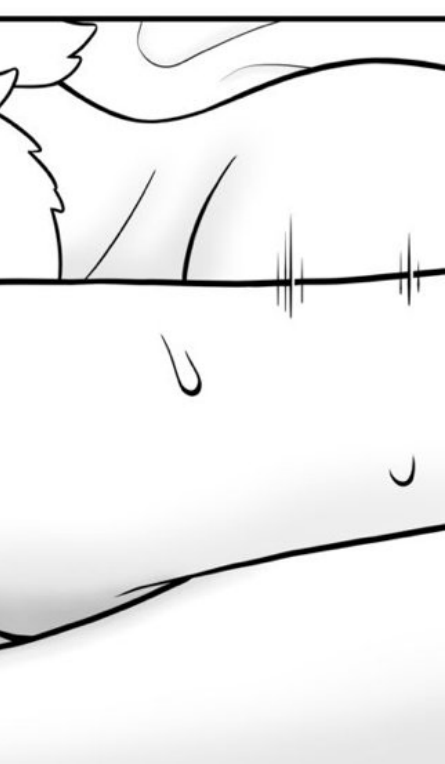
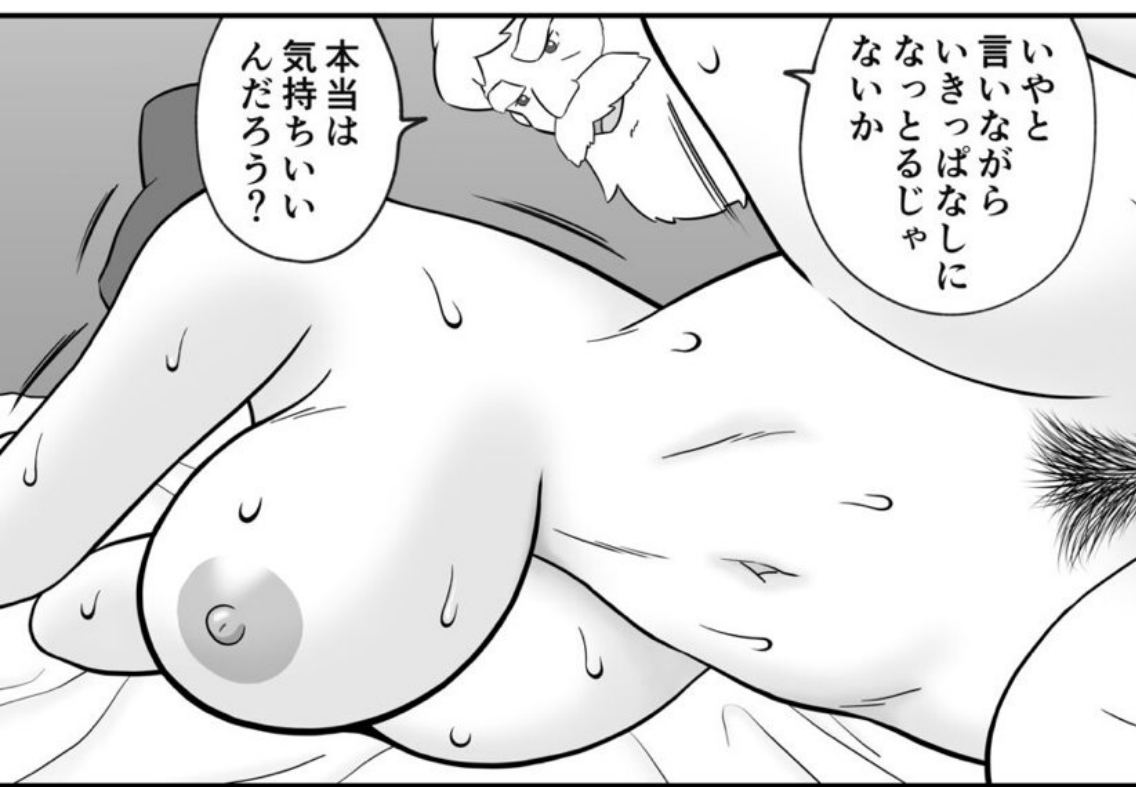


ううっ!!

ズ









あはあん

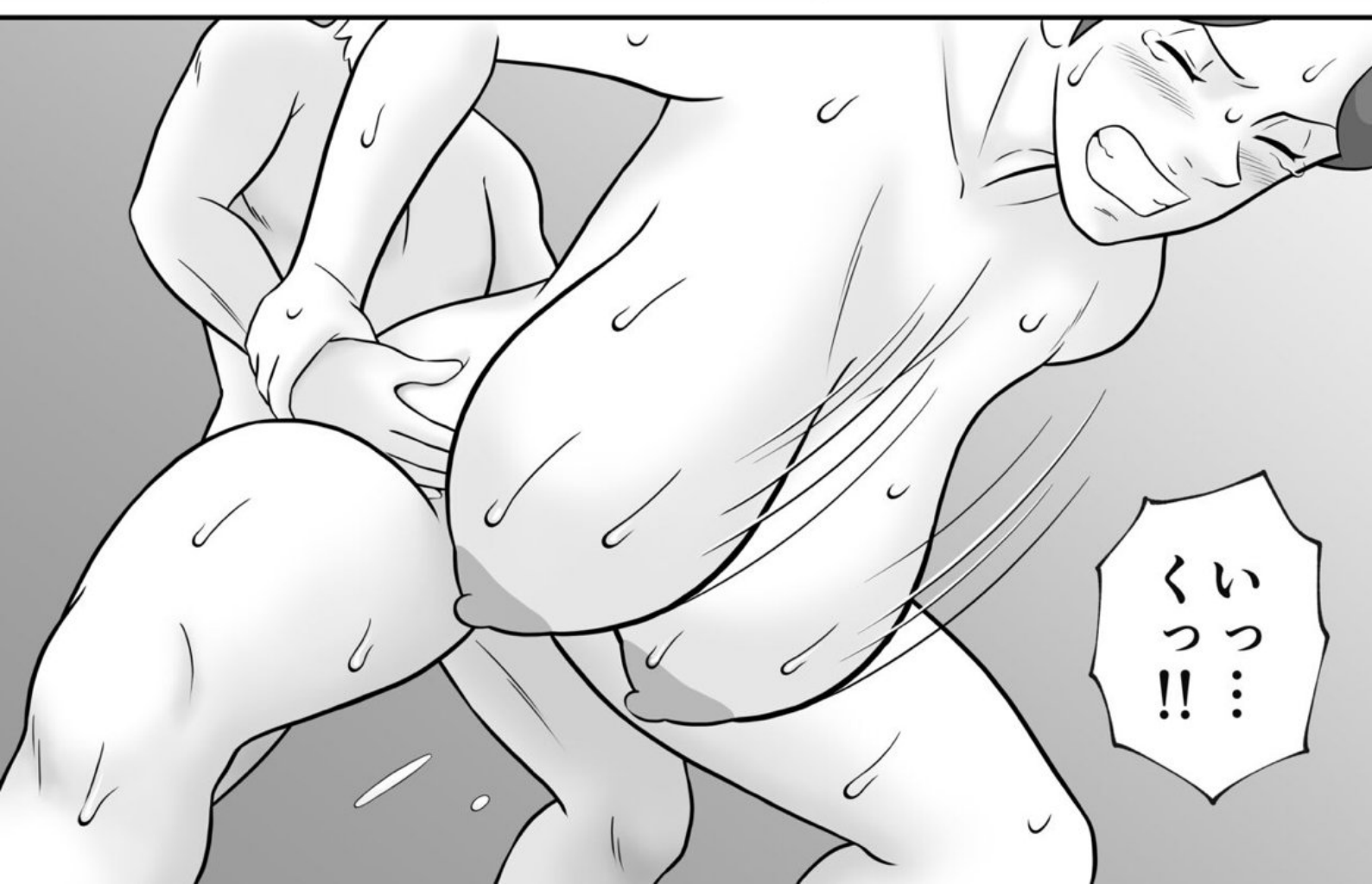
やっとなまなになつてきたな
思う存分突いてやるからいき
狂え!

ああん

こんな大きい
おちんちん
初めてっ!!

もっと
奥まで
突いてっ

もっとっ



くいつ!!



子宮に届いてるっ

あうっ

子宮の奥
ガンガン
当たってるっ

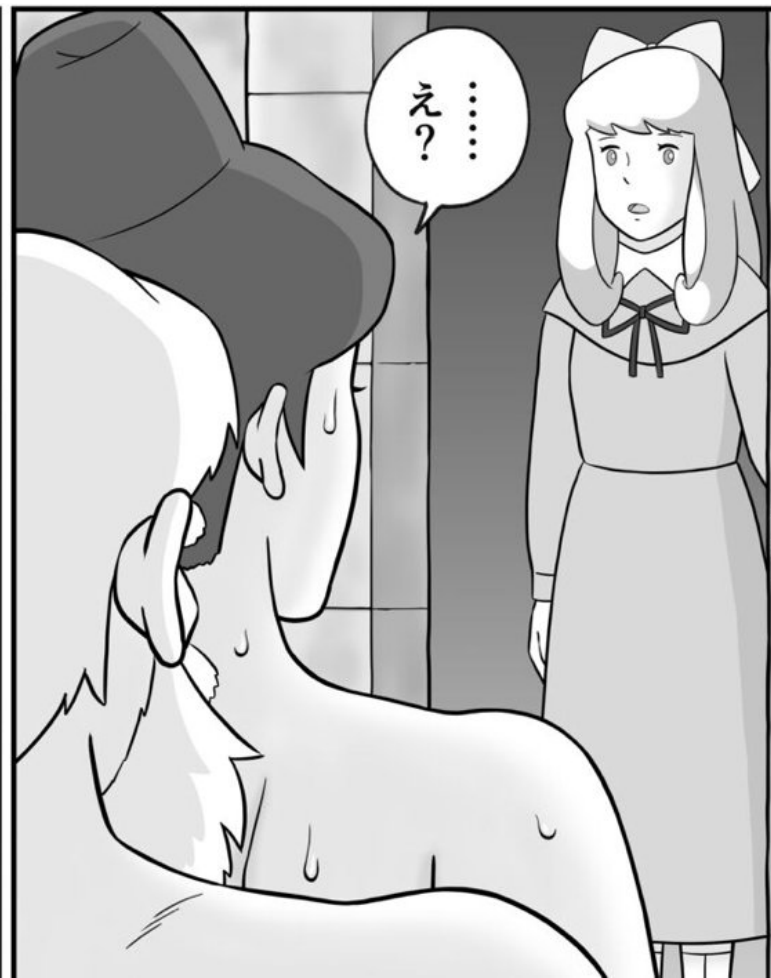
もうダメッ...

いっくー

~~~~っ!!



おっ、お嬢様...!!



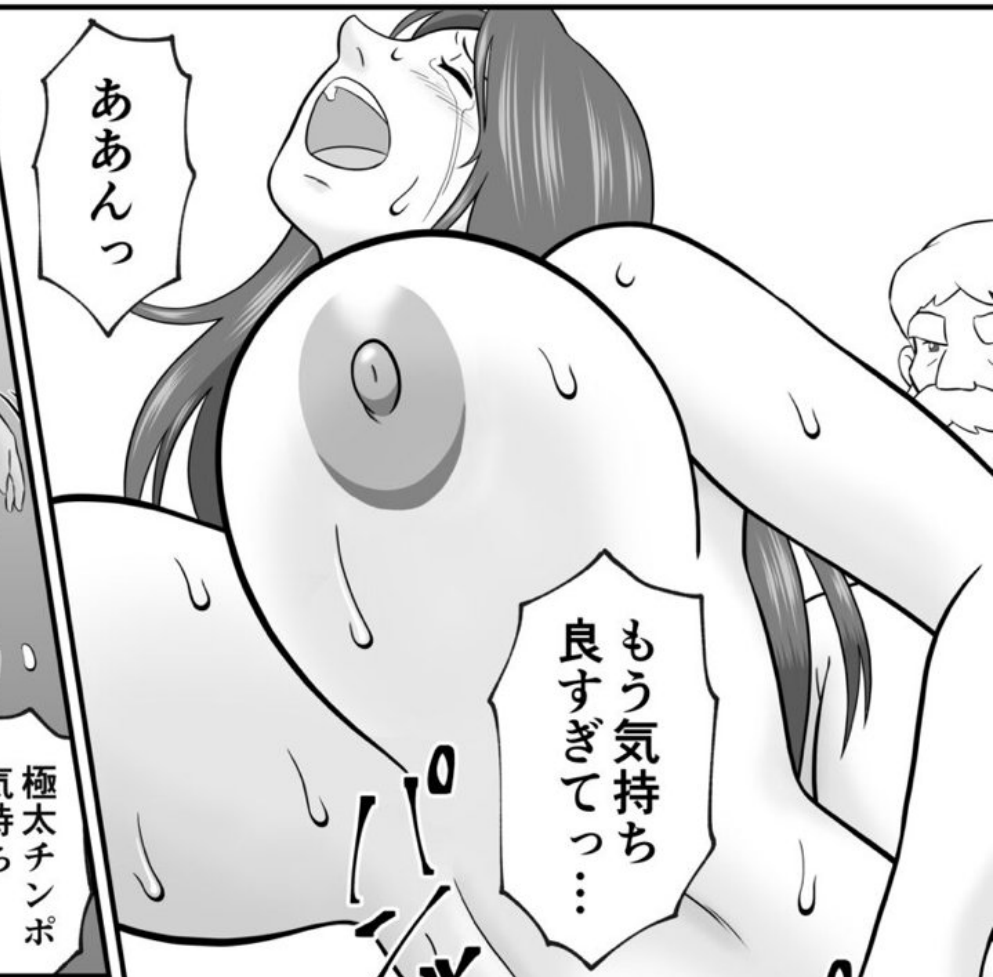
え...??

ロツテン  
マイヤー...  
さん...??



ギッ...!!









ワシも  
そろそろ  
いきそうだ

どこに  
出して  
ほしい？

私今まで  
誰にも中出し  
されたことが  
ないの!!

あんっ

お嬢様の  
前で初めて  
中出しされて  
いきたいっ!!

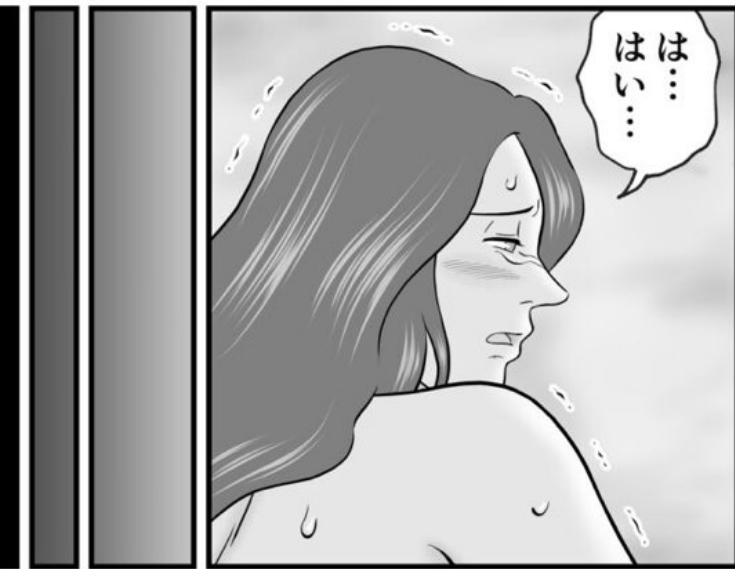
よしっ、  
お望み通り  
中に出すぞ!

ああっ

子宮に精液  
流れ込んで  
来るっ

いぐうっ!!!

ドググッ



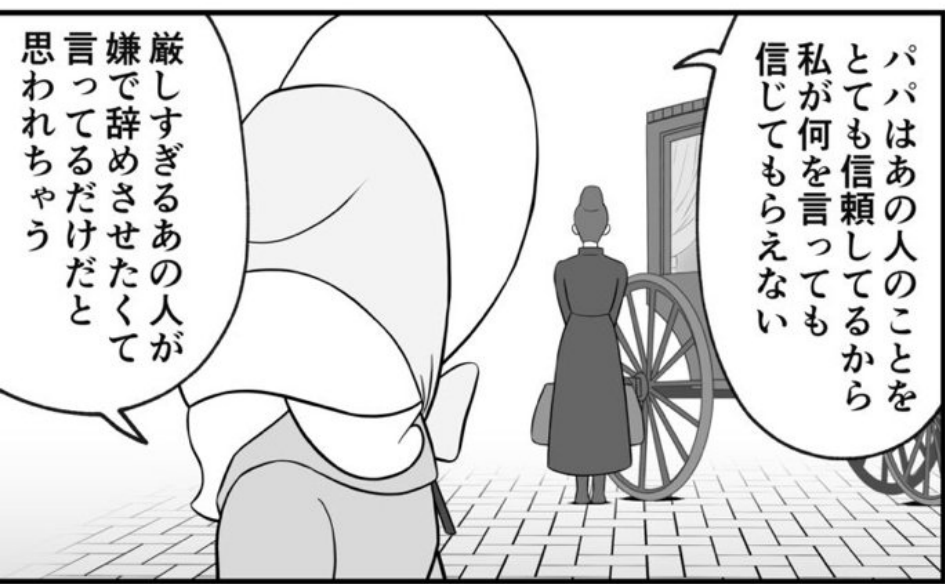


あの女も普段は上品ぶってはいるが薄皮一枚剥げばただの盛りをついた動物のメスと一緒にだったということだな



そこに付け込めばいいだけだったから簡単だったよ

どうやってあのおばさんをその気にさせようかと思っただらオナニーし始めるんだもん



厳しすぎるあの人が嫌で辞めさせたくて言ってるだけだと思われちゃう

パパはあの人のことをとても信頼してるから私が何を言っても信じてもらえない



亡くなったクララのお母様のことをなんだと思ってるのかしら

ほんとに身の程知らずよね、ゼーゼマンさんのことを好きになるなんて



でもロツテンマイヤーさんがゼーゼマンさんのことを好きだったなんて私ちっとも気づかなかったなあ



執事が主人を好きになるなんて絶対に許されない

だから自分で辞めるように仕向けなきゃならなかったの



ウフフ…



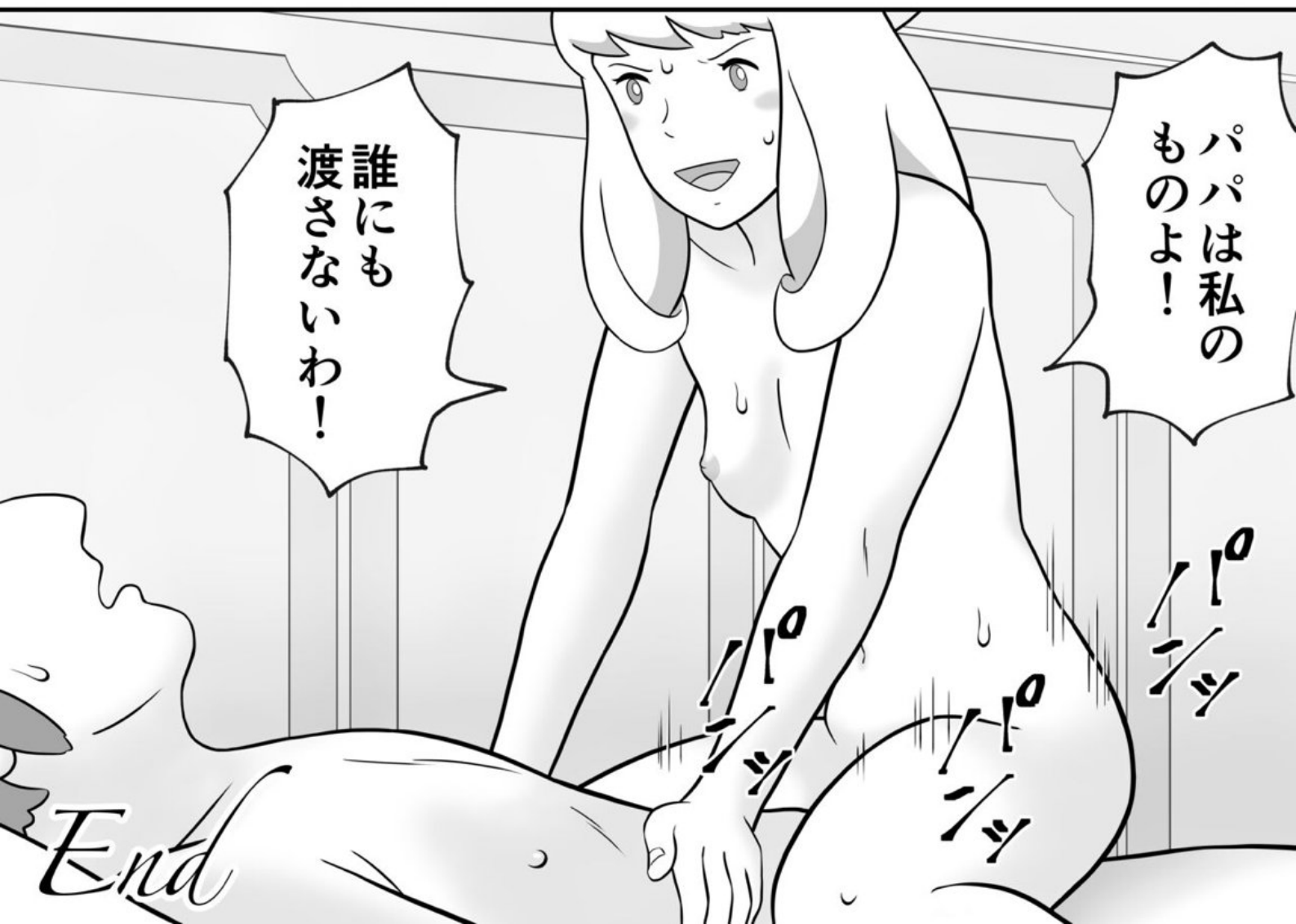
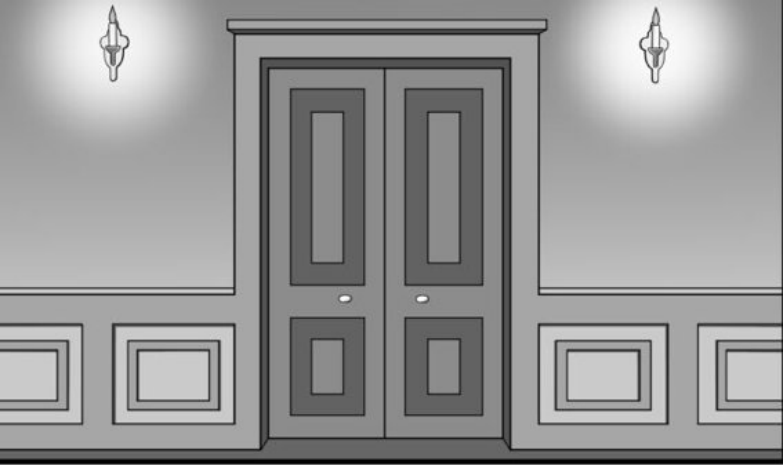
え、どうして？



よく分かったわねえ、クララ

そんな素ぶりなんか全然見せなかったんだもん

そりゃあ分かるわよ



イタリアのジェノバに暮らす少年マルコは、

出稼ぎに行ったまま連絡が途絶えてしまった母親のタリアを捜すべく、単身アルゼンチンへと旅立ちます。

長く困難な旅の末、ついにマルコはタリアとの再会を果たします。

そんな母と子が愛によって結ばれるのは自然の成り行きでした。



一緒にジェノバに帰ろうとせがむマルコにタリアは困惑します。なぜならタリアは奉公先の主人メキーネスさんと強引に性奴隷契約を結ばされていたからです——



次回、世界名作劇場シリーズ第二弾『母をたずねて〇千里』編にご期待下さい！

…すみません、嘘です

